

# 発達支援センター通信

◆野洲市発達支援センター TEL587-0033、FAX587-2004

広報「やす」:令和2年11月号掲載

## 「困った子」は「困っている子」

発達支援センターには、いろいろな人が、いろいろな困りごとがあって相談に来られます。中でも、子どもに関する相談が多くあります。「片付けができなくて困っています」、「人の話を聞かないので困っています」、「かんしゃくを起こすので困っています」など、困りごとは多種多様です。様々な相談がありますが、多くの相談は「困った子」をどうすればよいのかという相談です。この時の困っているのは、周囲の大人たちです。周囲の大人からの視点では、この子は人を困らせる「困った子」と捉えられています。

子ども本人からの視点で見るとどうなるのでしょうか。例えば「片付け」の場合、どこに何をしまえばよいかわからない、何から始めてよいかわからない、片付けを始めたけれど他のことが気になって片付けが手につかないなど、それぞれの片付けができない理由があります。つまり、その子ども自身が“どうしてよいかわからない”“うまくできない”と「困っている子」なのです。

では、「かんしゃく」の場合はどうでしょうか。子どもの視点で見ると、かんしゃくをおこすのには、どんな理由があるでしょう。大人にこっちを向いてもらいたいがどう話しかけてよいかわからない、やりたいことをどうしてもガマンすることができない、などの理由があるかもしれません。かんしゃくを起こす以外の方法を知らなかったり、ダメだとわかっていてもガマンできなかつたりしているのです。つまり、かんしゃくをおこす子ども自身も「困っている子」なのです。

周囲の人を困らせる「困った子」だと思うと、私たちは怒ったり叱ったりしてなんとかしようとします。でも、本人からすれば、自分自身が困っているのに怒られるという経験をしていることになります。その結果、どんどん自信がなくなっていたり、やる気をなくしてしまったりします。「困っている子」であれば、怒るや叱るではなく、助けが必要ですね。

もしも、「困った子」だなど感じたら、その子は「困っている子」なのでとはと考えてみてください。そして、どうして困っているのだろうと考えることが、「困っている子」を支える第一歩になるのです。

発達支援センターでは、「困っている子」がなにに困っているのか、どんな助けがあるとよいのかを一緒に考えることができます。「困っている子」にどうしてあげればよいかなや悩んでおられる方は、ぜひご相談ください。